

大鰐温泉には平川をはさんで数多くの温泉旅館が並んでいて、今は大鰐温泉と総称しているが、昭和29年（1954）の合併まで、

平川をはさんで北が蔵館村、南が大鰐町だった。蔵館村には明治期創業のヤマニ仙遊館と、昭和戦前期に創業した不二や旅館（不二やホ

テル）が蔵館温泉の老舗旅館として有名である。

これに対し大鰐町には静養館（後藤旅館）をはじめ、加賀助旅館と大鰐ホテルが

明治期から大正期にかけて創業しており、いずれも格式を誇った。しかし今は後藤旅館以外、どちらの旅館も姿を消している。

ツツジで有名な茶白山公園の入り口には相生橋が架かっている。そこには、か

つて大鰐町では洪水で流されないように、木製だった相生橋をコンクリート製の永久橋に架け替えたことがあった。ところが皮肉にか

川と橋の温泉街

中園 裕

（県民生活文化課史編さんグループ）

大の洪水をもたらし、昭和10年（1935）8月、青森

県内を襲った未曾有の豪雨で平川は激流と化した。木製の橋は次々と流された。コンクリート製の相生橋は

「相生松」があった（写真）。枝振りの良さから大鰐町のシンボリック的存在だったが、残念ながら大正11年（1922）に倒壊の恐れがあるとして伐採された。

大鰐温泉街の情緒は、静かで穏やかな平川の流れに負うところが大きい。しかし平川は、ひとたび豪雨が

あると氾濫し、川に架かっていた橋を流す恐ろしい存在を奪ったのである。

在でもあった。橋がなければ大鰐・蔵館双方の行き来は閉ざされ、温泉街に多大な被害をもたらす。温泉街の人びとは平川の洪水を

「大鰐流れ」と呼び、非常に恐れていたのである。かつて大鰐町では洪水で流されないように、木製だった相生橋をコンクリート製の永久橋に架け替えたことがあった。ところが皮肉にか

つて大鰐町では洪水で流されないように、木製だった相生橋をコンクリート製の永久橋に架け替えたことがあった。ところが皮肉にか

つて大鰐町では洪水で流されないように、木製だった相生橋をコンクリート製の永久橋に架け替えたことがあった。ところが皮肉にか

つて大鰐町では洪水で流されないように、木製だった相生橋をコンクリート製の永久橋に架け替えたことがあった。ところが皮肉にか

つて大鰐町では洪水で流されないように、木製だった相生橋をコンクリート製の永久橋に架け替えたことがあった。ところが皮肉にか

つて大鰐町では洪水で流されないように、木製だった相生橋をコンクリート製の永久橋に架け替えたことがあった。ところが皮肉にか

つて大鰐町では洪水で流されないように、木製だった相生橋をコンクリート製の永久橋に架け替えたことがあった。ところが皮肉にか

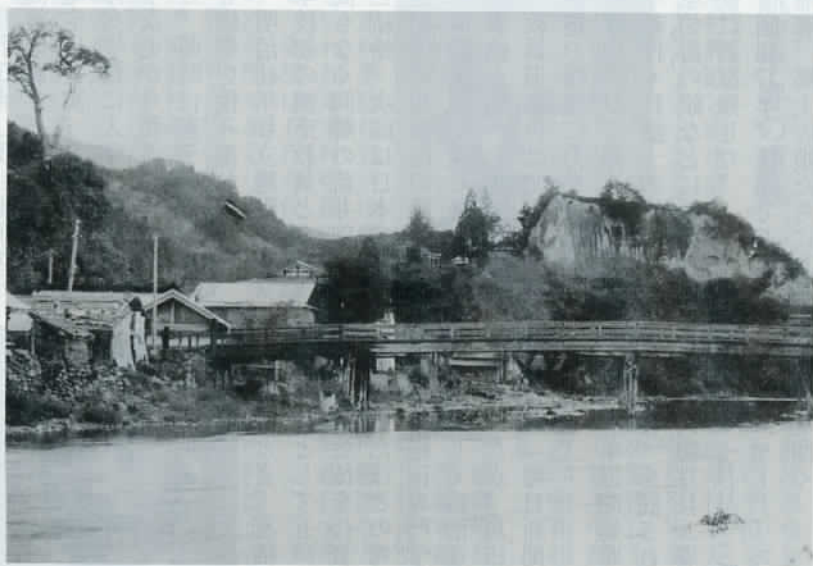
つて大鰐町では洪水で流されないように、木製だった相生橋をコンクリート製の永久橋に架け替えたことがあった。ところが皮肉にか

「大鰐流れ」は戦後にもたびたび起こった。そのため河川を改修し、治水事業として平川上流にダムを建設するなど、水害対策が施された。橋の構造自体も、

橋脚がなく橋桁の高い吊橋が最適と見なされ、多くの橋が架け替えられた。こうして昭和50年以降、ようやく「大鰐流れ」は影をひそめるようになったのである。

現在の大鰐町には、ヤマニ仙遊館がある青柳橋から、虹貝川と合流する虹の大橋まで、僅か1キロメートルほどの間に、青柳橋・中の橋・月見橋・相生橋・夏沢橋・羽黒橋・虹の大橋と七つも橋がある。虹の大橋の隣にはJR線の第2平川鉄橋があり、虹貝橋が続く。このうち、青柳、月見、相生、夏沢、羽黒の五つが吊橋である。いずれの橋も形や色が異なり、蛇行する平川との対比で「橋の町」の景観を演出している。

大正期の大鰐温泉（県史編さんグループ所蔵）



大正期の大鰐温泉（県史編さんグループ所蔵）